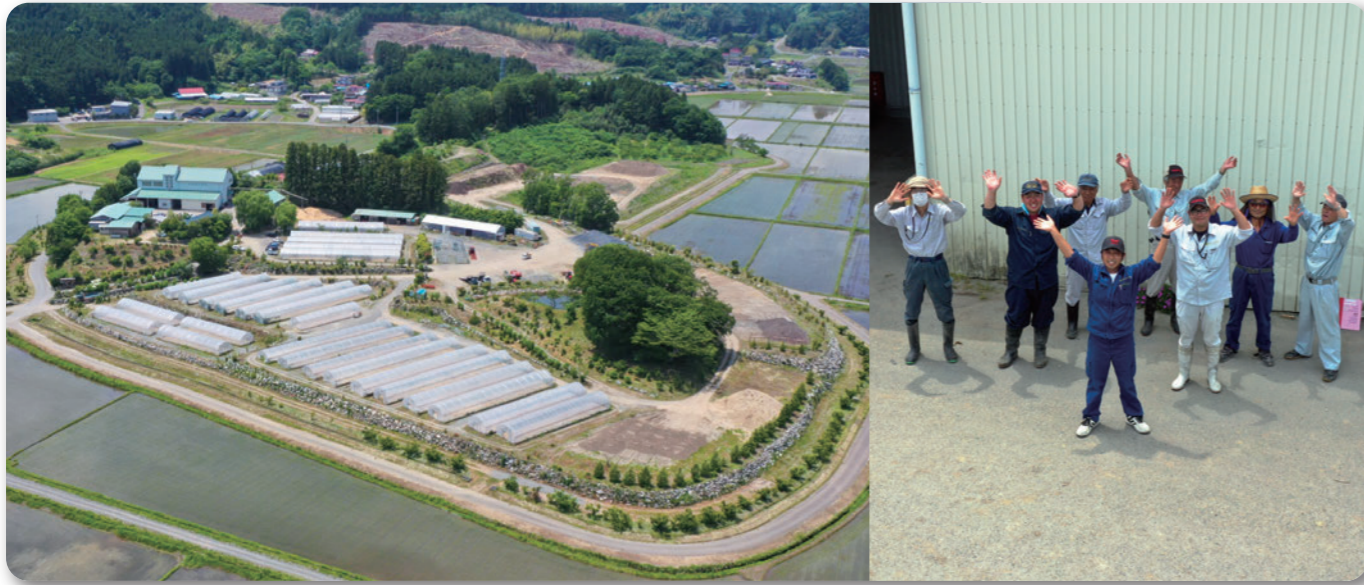


有限会社角田健土農場



1 現在の活動状況等

(1) 経営理念、目標

- 【遡源の実証主義】
原点に回帰し、理論や事実を立証すること。
- 【健土】
健康な土づくりを。健やかな土地から生み出される健やかな食物によって健やかな生命が育まれる。

(2) 生産技術の特長

- 水稲の耕作面積は約120haで、特別栽培米を含む12品種を作付けしている。
- 身近な農業系有機質物(野草、作物くず、草木灰、貯水堆積土など)を原料に発酵処理をした微量成分の豊富な完熟たい肥を用いて、「健康な土」づくりを行うことで、「健康な稲」の栽培を行っている。
- 敷地内でたい肥を製造し、減農薬・減化学肥料を実践し、持続可能な農業を目指している。

(3) 販売面の特長

- ASIA GAPの認証農場であり、全ての栽培品種の出荷記録は、GAPが担保となっている。
- 平成31年にASIA GAPの初回認証を受け、アジア圏企業への米の輸出に向けた取り組みなど、海外を含めた多岐に渡る販路開拓を行っている。
- 大口顧客への販売が9割以上、その他は、固定客への宅配と直売で、大口顧客は口コミにより増加している状況である。

(4) 経営組織の特長

- たい肥生産と土づくりを重視した土地利用型の農業法人である。
- 朝礼、夕礼で社員間の情報共有を図り、従業員の「気付き」を蓄積し、年4回の社内会議の中で、作業方針を話し合う際の材料としている。

(5) 労務管理の特長

- 繁忙期(4月、5月、9月、10月)は週休1日であるが、他の月は週休2日である。なお、令和4年の実績は、116日+天候等による作業休止日であった(自社カレンダーによる)。

(6) 経営管理の特長

- 「遡源の実証主義」を経営理念とし、GAPを通して、疑問や不明な事を実践し検証するスタイルが確立している。記録は義務であることが、会社の日常になっており、このことが目に見えない財産となっている。
- 肥料や資材高騰への対処として、各品種で作柄分析を行い、その結果を織り込んで、次年度計画を作成している。
- 農業経営に詳しい企業との提携や社会保険労務士の指導で、適切な経営管理を行っている。

(7) その他、特筆すべき事項

- 地区内の担い手と協議の場を設け、ほ場の集約化を実施している。
- 地区内全域の「地域資源保全隊」として、農村環境整備活動を行っている。
- 自社ホームページで、情報発信に務めている。

2 法人設立までの変遷(取り組み経過等)

(1) 法人設立までの動機、きっかけ

- 平成4年「作物を育てる土」への強いこだわりを持つ前代表を中心に「有機肥料研究会」が結成され、平成5年の大冷害の経験から「たい肥中心の地力増進で冷害にも強い作物づくり」を確信し、法人設立に取り組むこととなった。

(2) 法人化に至る経過等

- 健康な土づくりによる農業生産の志を共有する4名

経営のプロフィール

経営概要

水稲120ha

主な施設・機械の保有

小型乾燥調製施設(100ha規模、貯蔵乾燥設備(DAG)、色彩選別機等)、ビニルハウス25棟、乗用トラクタ7台、コンバイン4台、田植機4台、代掻き機5台、ユンボ5台、レーザーレベラー1台 ほか

構成員等

役員:取締役3名 監事2名
従業員:正社員8名 パート8名

法人設立年月日

平成7年4月5日

認定農業者認定年月日

令和2年9月5日

の農業者が、会社法人の設立と事業展開へ向けて綿密に話し合いを重ね、創設時の施設整備等の事業導入も含めて、法人化へ向けた関係機関の支援を受け、平成7年4月に有限会社を設立した。

(3) 法人化後の評価(良かった点等)

- ベテラン社員が、次世代を担う従業員への技術継承に努め、高い技術力が受け継がれている。
- 雇用により、後継者を確保しやすくなった。
- 販路拡大のための商談等において、相手企業と対等に交渉ができる。

3 今後、将来に向けてのビジョン等(現時点)

(1) 将来ビジョンと経営戦略等

- 代表取締役が作成していた作付・作業計画や作業指示書について、次年度から幹部候補の従業員の手で作成することとした。
- 販売部門を独立させた経営を目指し、代表取締役は販売に注力する時間を得て、アジア圏への輸出や新規販売先開拓を行いたいと考えている。
- 目標管理の数字を明確にすることで、従業員のモチベーションに繋がりたい。
- 地域農業の存続を目指し、地域農業者との連携をより図っていく。
- 生産物を年内中に売り切ることができる体制を整えていきたい。

(2) 達成へ向けた課題及び取り組み状況

- 人材の確保・育成に力を入れていく。
- 現在は水稲部門のみであるが、今後、園芸作物も取り入れていく予定である。
- 社員として、農業に興味のある方を男女問わず募集している。

(調査 大河原農業改良普及センター)

略図



有限会社角田健土農場

〒981-1518
宮城県角田市稲置字狐崎3番地
TEL 0224-67-3011 FAX 0224-67-3012
Eメール info@kendo.co.jp
URL https://k-kendo.co.jp/

受入可

視察目的を明確にしたうえで、普及センターを通じて御相談ください。
連絡先:大河原農業改良普及センター
地域農業第一班 TEL:0224-53-3519

視察受入条件